

エチオピアの舞踊特性と舞踊のデジタル記録・解析・考察（下）

相原 進ⁱ，遠藤 保子ⁱⁱ，野田 章子ⁱⁱⁱ

本研究の目的は、今日のエチオピアにおける舞踊の特性を明らかにすることである。エチオピアの舞踊は、元来、地域の共同体の中で伝承されてきた。今日では、若者の欧米文化への偏重傾向等により伝統的な舞踊や音楽が演じられる機会は減ってきているが、国立劇場に所属する舞踊団や、民間の舞踊団によって舞踊が伝承されている。本研究では、エチオピアの舞踊の特性を明らかにするためにエチオピアで人類学的フィールドワークを行い、エチオピア北部の舞踊ウォロ、中西部の舞踊グラゲ、南部の舞踊コンソ、東部の舞踊ソマリ、中南部の舞踊オロモの計5種類について、モーションキャプチャを利用してデジタル記録を作成し、特に肩と腰の速度変化、肩と腰のラインの角度変化、腕とひざの動きに関する解析を行い、解析結果について現地舞踊家への聞き取り調査を行った。その結果、各舞踊の基本的な動作の特性が明らかになり、さらに、特定の部位のみを強調すると考えられていた舞踊であっても全身を用いた多彩な表現が行われていることが明らかになった。また、解析結果をもとにした聞き取り調査を行うことで、各舞踊における動作特性や、望ましいとされる動作について、より一層の把握が可能となった。

キーワード：エチオピア，舞踊，モーションキャプチャ，動作特性

目次

はじめに

I エチオピアの自然・社会・文化・歴史

II 先行研究

III エチオピア国立劇場と国立舞踊団

(以上産社論集52-3号)

IV エチオピアの舞踊解析 (以下本号)

IV・1 舞踊動作の収録

IV・2 被験者

IV・3 演目

IV・4 解析

V 解析結果に関する聞き取り調査と考察

V・1 男性による各舞踊動作に関する聞き取り調査と考察

V・2 女性による各舞踊動作に関する聞き取り調査と考察

おわりに

IV エチオピアの舞踊解析

本研究においては、モーションキャプチャにより収録したデータをもとに舞踊動作の分析を行う。データの収録にあたっては、2008年11月に来日した国立舞踊団のディレクターに対し聞き取り調査を行い、地域や民族を考慮した上で代表的な5つの舞踊演目を選んでもらい、各演目における典型的な2つの動作を選んでもらうことにより収録演目を選定した。

IV・1 舞踊動作の収録

2008年11月、立命館大学衣笠キャンパスのアート・リサーチセンターにおいて、モーションキャプチャを用いて舞踊動作の収録を行った。舞踊動作の収録では、専用のスーツに32個のマーカーを取り付け、それぞれのマーカーの軌跡を12台のカメラを用

i 立命館大学非常勤講師

ii 立命館大学産業社会学部教授

iii 立命館大学大学院社会学研究科博士後期課程

いて追跡し、モーションアナリシス社のソフト「EVarT 4.2」を用いて記録と編集を行った。

IV・2 被験者

被験者はエチオピア国立劇場に所属する団員4名で、その内訳は、男性2名、女性2名となっており、全員が舞踊家である。これら舞踊家4名のプロフィールについては以下のとおりである。

①男性A

北部のティグレ州出身。身長175cm、体重57kg。舞踊団に所属する前の舞踊経験は4年、舞踊団には2年所属。

②男性B

南部諸民族州のグラゲ地方出身。身長175cm、体重60kg。舞踊団に所属する前の舞踊経験は13年、舞踊団には10年所属。

③女性C

北部のアムハラ州出身。170cm、50kg。舞踊団に所属する前の舞踊経験は4年、舞踊団には2年所属。

④女性D

南部諸民族州のグラゲ地方出身。身長165cm、体重57kg。舞踊団に所属する前の舞踊経験は4年、舞踊団には3年所属。

IV・3 演目

収録した演目は、ウォロ2種、グラゲ2種、コンソ2種、ソマリ2種、オロモ2種であり、収録・解析を行った舞踊の概要は以下のとおりである。

IV・3・1 ウォロ

エチオピア北部、ウォロ地方のアムハラ人の中で伝承されてきた舞踊である。ウォロの舞踊は男性が牧畜のスティックを持って踊る。女性も男性も、肩の動きなどを強調するエスケスタを中心に踊る。

IV・3・2 グラゲ

グラゲは、首都アディス・アベバの南に位置する地方等で生活している民族の名前である。グラゲの舞踊では、脚が最もよく使われる。ひざを胸に付けるように高く蹴りあげて体を前傾させながら踊った

り、脚のリズムに合わせ、顔に水をかけるように手をたたきながら踊ったりする。これらの動きは、彼らが穀物を脱穀するときの動作に由来していると言われている。

IV・3・3 コンソ

エチオピア南東の小さな村々に住むコンソ人に伝わる舞踊である。コンソ人は山岳地帯に集落を形成しており、周辺の他の部族とは異なる独自の文化を持っている。コンソ人の舞踊は、肩、ひじなどの動作や、巧みなひざの動きに特徴があると言われている。

IV・3・4 ソマリ

エチオピア東部とその隣国ソマリアに広く分布する、ソマリ人に伝わる舞踊である。彼らはラクダを連れて水場を移動する遊牧民である。彼らの舞踊は、腕を前後左右に大きく伸ばす動作や、腕と脚を同時に使ったりリズムカルなジャンプが特徴的である。

IV・3・5 オロモ

オロモはエチオピアで最も大きい民族のひとつである。オロモの人々はエチオピア中南部の広範囲に渡って居住しており、居住地域によりアルシ・オロモ Arsi Oromo, ショア・オロモ Shewa Oromo, ウォラガ・オロモ Welega Oromo, バレ・オロモ Bale Oromo 等に細分される。本研究では、アルシ・オロモとショア・オロモの舞踊動作を分析している。アルシ・オロモは、エチオピアの中央からやや南東に位置する地域に住む人々である。アルシの女性舞踊家は、首から上を激しく八の字に振り回すことにより髪を振り乱すことを通じて女性らしさを表現する。アルシ・オロモ、ショア・オロモともに、牧畜で使うスティックを用いた動きが舞踊動作の中に取り入れられている。

IV・4 解析

A. ローマックスは、通文化的に舞踊動作をみる際、胴体が1つのユニットとして、あるいは複数のユニットとして扱われているかを論じている (Lomax 1969)。複数のユニットとして胴体を扱う例について、ローマックスは、上半身を固定しつつ、下半身

の骨盤，腰，腹部周辺を動かすという動作を挙げている。これまで筆者らは，ローマックスの考えをもとに，ナイジェリアやガーナの舞踊動作について，特に肩と腰の動きに着目してモーションキャプチャデータの解析を行ってきた（遠藤他 2014）。

それを踏まえ，本研究における舞踊動作の解析においては2つの点に着目する。1点目は，舞踊家が身体，特に胴体をどのように動かしているかである。2点目は，各舞踊家の表現方法の違いである。それらを明らかにするため，各舞踊家の肩と腰の動きについて，各部位の速度変化と角度変化に着目して解析を行った。

肩と腰の速度変化については，左右の肩，左右の腰に取り付けた計4個のマーカの軌跡をもとに，マーカの移動距離を時間で除算することで秒速を算出した。角度については，正面から見た肩の角度変化（数式1）と，腰の角度変化（数式2）を算出した。

$$\theta^s = \tan^{-1} \frac{LS_y - RS_y}{\sqrt{(LS_x - RS_x)^2 + (LS_z - RS_z)^2}}$$

LS：左肩マーカ RS：右肩マーカ
xyzは各マーカの三次元座標

数式1 正面から見た肩の角度変化の計算式

$$\theta^w = \tan^{-1} \frac{LA_y - RA_y}{\sqrt{(LA_x - RA_x)^2 + (LA_z - RA_z)^2}}$$

LA：左腰マーカ RA：右腰マーカ
xyzは各マーカの三次元座標

数式2 正面から見た腰の角度変化の計算式

また，エチオピアの舞踊においては腕やひざの動きも重要となるため，左右の両ひじ，両ひざの計4か所についても，各部位の動きを把握するために速度を算出している。これらの速度についても，肩と腰の各マーカの速度と同様，マーカの移動距離を時間で除算することによって算出している。

このようにして，収録した5演目について，各舞踊家の肩，腰，ひじ，ひざの速度変化と角度変化についての分析結果をまとめた。表1，表2は，各被

験者の舞踊動作の分析結果のうち，特に肩と腰の動きについて男女別にまとめたものの一覧表である。

V 解析結果に関する聞き取り調査と考察

2014年9月15日および2016年9月8日，アデイス・アベバにおいて，舞踊動作のデジタル記録（三次元映像）や解析結果についての聞き取り調査を行った。調査対象者は，国立舞踊団所属の対象者S（男性・2014年当時24歳・舞踊家）および対象者Z（男性・2014年当時42歳・太鼓演奏者）である。調査は以下のような手順で行っている。まず各演目について，男性，女性それぞれの舞踊動作のデジタル記録を見せる。次に，各舞踊の動作における特性や重要な点について質問し，最後に，各舞踊の特性や重要な点を踏まえた上で，各舞踊家の解析結果に関する質問を行っている。

V・1 男性による各舞踊動作に関する聞き取り調査と考察

※男性の各舞踊動作に関する聞き取り調査の結果および考察は『立命館産業社会論集52-3号』に掲載。

V・2 女性による各舞踊動作に関する聞き取り調査と考察

次に，女性の各舞踊動作に関する聞き取り調査の結果および考察は以下ようになった。

V・2・1 ウォロ

対象者S，Zによると，ウォロaにおいて，舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性Cであり，その理由は，ウォロaで，もっとも重要な点は首と肩の動きであり，女性Cは，その動作ができてからであるとしている。解析結果を見ると，女性Cは肩，ひじ，ひざの速度において女性Dを上回っており，聞き取り調査で得られたコメントを解析により裏付けることができています。

また，ウォロbについて，対象者S，Zによると，

表2 女性C, 女性Dの解析結果

	女性C	女性D
ウォロ a	肩と腰を穏やかに動かす。肩と腰ともに速度は速くないが、肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。角度変化でも、肩の角度変化が大きいのに比べ、腰はほとんど角度が変化しない。ひじを速く動かす一方、ひざは、ひじほど速く動かさない。	肩と腰を穏やかに動かす。肩、腰ともに速度は速くなく、どちらも同じような速さで動く。角度変化では、肩の角度変化が大きいのに比べ、腰はほとんど角度が変化しない。ひじを速く動かす一方、ひざは、速く動かない。
ウォロ b	肩と腰を穏やかに動かす。肩、腰ともに速度は速くないが、肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩と腰の角度変化はともに小さいが、肩の方が腰よりも角度変化が大きい。ひじ、ひざの速度も穏やかだが、ひじの方がひざより速く動いている。	肩と腰を穏やかに動かす。肩、腰ともに速度は速くないが、肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩と腰の角度変化はともに小さいが、肩の方が腰よりも角度変化が大きい。ひじ、ひざの速度も穏やかだが、ひじの方がひざより速く動く。
グラゲ a	肩と腰を穏やかに動かす。腰の速度の方が、肩よりも少し速い。肩と腰の角度変化は、ともに少ない。ひじとひざを速く動かしており、ひじの動きの方が速い。	肩と腰、どちらも少し速めに動かす。肩の角度変化が大きく、腰の角度変化は小さい。ひじとひざを速く動かしており、ひじの動きの方が速い。
グラゲ b	肩と腰を穏やかに動かす。肩の方が腰よりも速度が速い。角度変化でも、肩の角度変化の方が腰の角度変化よりも大きい。ひじ、ひざも動くが、速くはない。	肩と腰を穏やかに動かす。肩と腰との速度はそれほど変わらない。角度変化でも、肩の角度変化と腰の角度変化に大きな差はない。ひじ、ひざを速く動かしている。
コンソ a	肩と腰を穏やかに動かす。肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩、腰とも角度変化は大きくないが、肩の方がやや変化が大きい。ひじ、ひざの動きも穏やかだが、比較すると、ひざの動きの方が速い。	肩と腰を穏やかに動かす。肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩、腰とも角度変化そのものは大きくないが、肩、腰とも同じような振幅をしている。ひじ、ひざの動きも穏やかだが、ひじの動きの方が速く、動きも多いことがわかる。
コンソ b	肩と腰を穏やかに動かす。肩と腰の速度変化の波形が異なっており、肩と腰とで、異なった動きをしている。肩と腰の角度変化でも、肩の方が、腰よりも動いている。ひじとひざの速度変化も波形が異なっており、ひじを動かすことの方が、ひざを動かすことよりも多い。	肩と腰を穏やかに動かす。肩と腰の速度変化の波形が異なっており、肩と腰とで、異なった動きをしている。速度変化では、腰の方が大きく動いている。角度変化を見ると、肩と腰を同じように動かしていないが、肩、腰ともに動いており、どちらかの動きの方が大きいとは言えない。ひじとひざの速度変化も波形が異なっており、ひじの動きが大きく、ひざをひじよりも小刻み動かしている。
ソマリ a	肩と腰を穏やかに動かす。肩の速度よりも腰の速度の方が速い。一方、角度変化では、肩の変化の方が大きく、腰の角度変化は小さい。両ひじの動きは穏やかである。ひざの動きでは、左ひざの方が、右ひざよりも大きく動いている。	肩と腰を穏やかに動かす。肩の速度よりも腰の速度の方が速い。一方、角度変化では、腰の変化の方が大きく、肩の角度変化は小さい。両ひじの動きは穏やかである。ひざの動きにも、左右で大きな差はない。
ソマリ b	肩と腰とを穏やかに動かす。肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩と腰の角度変化はともに小さい。両ひじを速く動かしている一方、左ひざの動きは小さく、右ひざの動きの方が大きい。	肩と腰とを穏やかに動かす。肩の速度の方が、腰の速度よりも速い。肩と腰の角度変化はともに大きい。ひじの速さでは、右ひじの方が速く、左ひじの方が遅い。ひざについては、左右での明確な速度の違いは見いだせない。
オロモ a	速度変化から、肩を穏やかに動かし、腰はほとんど動かさない。角度変化から、肩を大きく動かしているが腰はほとんど動いていない。ひじとひざの速度変化から、ひじを穏やかに動かし、ひざはほとんど動かしていない。	速度変化から、肩と腰を穏やかに動かしている。肩の速さの方が腰よりも速い。角度変化から、肩を大きく動かしているが腰はあまり動いていないことがわかる。ひじとひざの速度変化から、ひじを穏やかに動かし、ひざを小さく小刻みに動かしている。速度を見ると、ひじとひざが同じように動いていない。
オロモ b	肩と腰とを速く動かしている。角度変化を見ると、肩と腰の動きはそれほど大きくないため、肩と腰の動きは、速く、小刻みである。ひじとひざの速度変化から、ひじ、ひざを穏やかに動かしている。ひじは両方とも同じような速度だが、左ひざの方が、右ひざよりも少し速い。	肩と腰の速度変化が遅く、角度変化も小さい。肩の速度変化の方が腰よりも大きく、角度変化も肩の方がやや大きいため、肩のほうが進んでいる。ひじ、ひざの速度変化から、ひじを穏やかに動かし、ひざがほとんど動いていない。左ひじの方が、右ひじよりも速く動いている。

この舞踊は首を前後に動かす動作が中心となっており、ウォロbにおいてもっとも重要な点は首と肩の動きであり、次に、腕と全身の動きが重要となっているとのことである。ウォロbにおいても女性Cが舞踊動作の特性に即した動きをしており、その理由として、首、肩、腕の動きの良さを挙げている。解析結果を見ると、ウォロbは全体的に穏やかな舞踊

動作であるが、女性Cの方が、肩、腰、ひじ、ひざのすべてにおいて速度が上回っていることから、対象者S、Zのコメントを裏付けできる解析結果となっている。

V・2・2 グラゲ

対象者S、Zによると、グラゲaにおいて舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性Dである。

グラゲ a の重要な点は、腕と脚の動きと、時々、首と肩も用いることであり、女性 D の舞踊動作においては全体的に動きが良く、特に腕と脚の動きが良いから、女性 D の方が良いとしている。解析結果においても、女性 D のひじ、ひざの速度が女性 C を上回っており、対象者 S、Z のコメントを裏付けできる解析結果となっている。

また、対象者 S、Z によると、グラゲ b も、舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 D であるという。グラゲ b の重要な点は、脚、肩、首の動きであり、腰の動きも重要である。女性 D は全身を使い、腰も動いているのに対し、女性 C は腕の動きのみで表現しようとしているため、女性 D の動きがベストであるとしている。解析においても、女性 D の肩、腰、ひじ、ひざの速度のすべてが女性 C を上回っており、対象者 S、Z のコメントを裏付けできる結果となっている。

V・2・4 コンソ

対象者 S、Z によると、コンソ a において、舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 D であるという。コンソ a の重要な点は肩、腕、脚の動きであり、時々、首も使う。女性 D は、全身の動きが良く、その中でも特に首と肩の動きが良いとしている。解析では女性 C と女性 D とで、速度、角度とも数値そのものが小さいため、目に見えるような差がなく、また、本研究では首の動きの解析は行えていないため、聞き取り調査を解析で裏付けることはできなかった。

次に、対象者 S、Z によると、コンソ b において、舞踊特性に即した動きをしているのは女性 D であるという。コンソ b の重要な点は腰と腕の動きであり、女性 D は、腰と腕の動きが良いとしている。解析では、コンソ b について、女性 D の方が腰を動かす表現を用いている傾向が読み取れており、対象者 S、Z のコメントを裏付けできる結果となっている。

V・2・5 ソマリ

対象者 S、Z によると、ソマリ a において、舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 C であ

るという。その理由は、ソマリ a の重要な点は腰と腕の動きであり、女性 C は、腕、肩、上半身の動きが良いからであるとしている。解析結果では、女性 C の方が女性 D よりもひじの速度が遅く、肩、腰の角度変化については、女性 C の方が肩を大きく動かしている。一方、腰の動きでは、女性 D の方が大きい。これらのことから、上半身の動きに着目すると女性 C の動きの方が良いため、ある程度、対象者 S、Z の証言を解析によって裏付けられたと言えるが、さらなる検証も必要である。

次に、ソマリ b において舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 D であるという。その理由は、ソマリ b の重要な点は腕と腰の動きであり、女性 D は、おもに腕と肩を中心とした、全身を使った波のような動きができていからであるとしている。解析では、肩とひじの速度では女性 C と女性 D との間に明確な差はないが、肩と腰の角度変化については、女性 D の方が、明らかに大きく、きれいな波形を描いていることから、聞き取り調査を解析で裏付けることができている。

V・2・6 オロモ

男性の舞踊動作と同様、オロモ a はショア・オロモ、オロモ b はアルシ・オロモの動作である。対象者 S、Z によると、オロモ a において、舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 D であり、その理由として、オロモ a では、おもに首、腕、ひざを使いつつ全身を用いて力強い表現をすることが望ましく、女性 D は、オロモ a で重要とされる動きができていとのことである。解析結果を見ると、肩の角度変化から女性 D の動きが大きく、左右のひじの速度変化においても女性 D 方が多彩な動きをしていることがわかり、聞き取り調査の結果を裏付けることができる。

次に、対象者 S、Z によると、オロモ b においても、舞踊動作の特性に即した動きをしているのは女性 D であるという。その理由として、オロモ b においては腕と首の動きが重要であり、女性 D はその動きができていことを挙げている。解析結果を見る

と、腕の速度変化においては両者に大きな差はないが、肩の角度変化では女性Cの方が女性Dよりも大きい。対象者Zによると、オロモaでは首を中心に頭を動かして髪の毛を振り回すような表現を行うが、この表現は全身を用いるのではなく、あくまでも首の動きによって行われるという。そのため、肩の角度変化が小さいDの方が優れており、肩の角度変化が大きく出てしまった女性Cの方が劣っているとみなされたと考えられる。

V・2・7 女性の舞踊に関する全体的傾向

以上が女性の舞踊動作に関する聞き取り調査の結果である。女性の舞踊においては、腰の動きや全身を用いた表現が重要となることとあり、解析結果でも、そのことを裏付けられるような結果を得られている。

さらに両ひじと両ひざの動きも算出したことを通じて、肩や腰を強調する場面であっても、両腕や両脚も常に動かしながら、全身を用いて多彩な表現を行っていることが明らかになった。また、特にソマリやウォロにおいて、男性と比べてひざの動きが小さいという傾向もはっきりと現れており、この点についても、女性の場合は腕と腰の動きを重視するという聞き取り調査でのコメントを裏付ける結果となっている。

ただ、男性の舞踊動作の場合と同様、強調・重視すべき部位の動作について、動作の大きさ、速さ、一定のリズム等、何が重要とされるかについては舞踊動作ごとに基準が異なる可能性が示唆されたため、今後、さらなる検証を要することとなった。

おわりに

本研究では、人類学的調査とモーションキャプチャを用いた解析を通じて、エチオピアの舞踊動作の特性および、舞踊家における舞踊動作の特性の表現について明らかにした。

舞踊動作の解析と聞き取り調査から、エチオピアの各地域で継承されている舞踊それぞれにおいて、

どの部位に重点を置くのかが明確に決まっていることがわかった。また、各舞踊とも肩を回す、肩を震わせる等各部位が個別の動きをしている際にも、他の部位も何らかの動きをしていることが明らかになった。たとえばエチオピアの舞踊の特徴のひとつとして、肩や胸のみを動かすことや「エスケスタ」と呼ばれる肩のみを大きく動かす動作が存在することが挙げられるが、調査および解析の結果からわかったことは、「エスケスタ」のような肩を動かすことを見せる場面以外では、たとえば肩のみを動かしているように見える場面でも、全身を用いて表現しているということである。また、男性と女性との表現において、男性が腕・肩・ひざ、女性が腕・腰の動きを重視するという違いがあることも、解析結果により裏付けられた。

地域間の差に関しては、それぞれの舞踊家の出身地が舞踊動作の評価に影響を及ぼす可能性が見出された。男性Aと男性Bのプロフィールと聞き取り結果とを比較すると、北部出身の男性Aは、北部の演目の評価が高く、南部出身の男性Bは、南部の演目であるグラゲの評価が高いという結果になった。ただし、東部の演目ソマリでは男性Aの方が高い評価を得ており、北部の演目であるウォロでは男性Bの評価が高かったことから、舞踊歴や年齢等、他の要素も考慮すべき結果となった。一方、女性Cと女性Dのプロフィールと聞き取り結果とを比較すると、北部出身の女性Cは、北部の演目であるウォロの評価が高く、南部出身の女性Dは、南部の演目であるグラゲ、コンソの評価が高いという結果になった。また、東部の演目であるソマリについては、ソマリaは女性C、ソマリbは女性Dとなった。結果的に、出身地がそのまま舞踊動作の評価に繋がり、互いの出身地ではない東部の演目においては、それぞれが舞踊動作ごとに異なった評価を得るということになった。これらのことから、女性の場合においても舞踊歴や年齢等、他の要素も考慮すべき結果となった。今後の課題として、人類学的な調査をもとに、それぞれの地域の歴史、身体観、生業形態、宗教等を

踏まえた上で、舞踊動作についての考察を進めていくことが挙げられる。また、舞踊動作の特性に関しては、本研究で明らかになったエチオピアの動作と、これまで筆者らが行ってきた西アフリカ、東アフリカでの舞踊の動作特性の解析結果とを比較し、類似点や異なる点を明らかにすることも課題としたい。本研究の動作解析では、筆者らがこれまで行ってきた方針を踏襲して肩と腰の動きの分析を行ったことに加え、ひじ、ひざにも着目している。その点に関連し、本研究の執筆者の1人である野田は、修士論文において肩と腰以外にも着目した上で舞踊の動作特性を明らかにしている¹⁾（池田 2000）。この点についても、モーションキャプチャのデータをもとに裏付けられるか、今後も検証を継続していく。

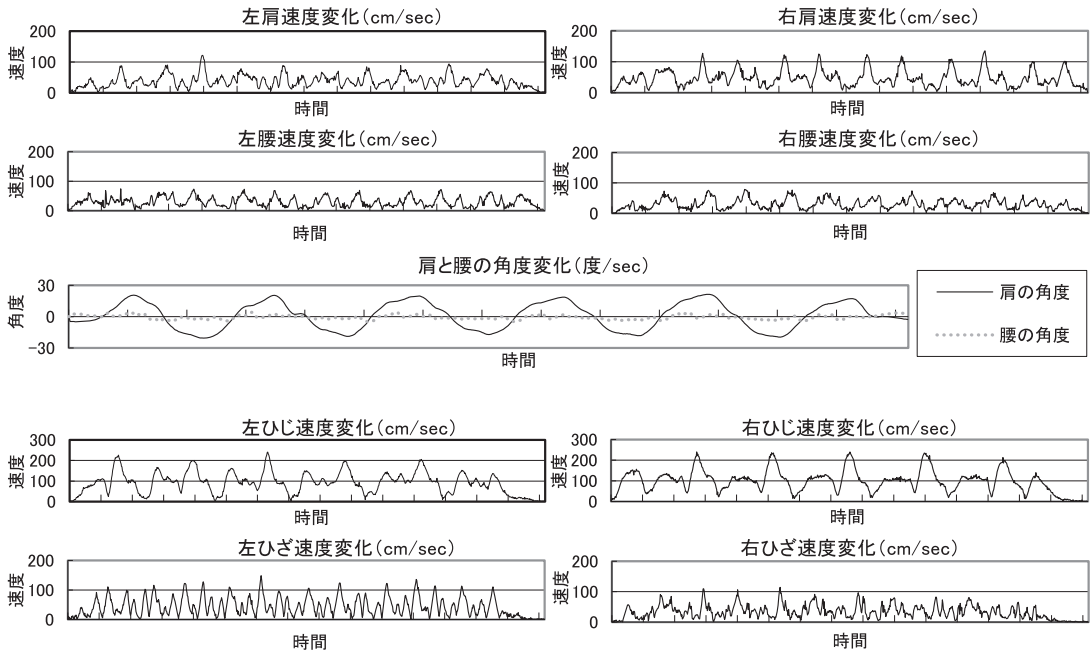
また、本研究の成果をもとに、モーションキャプチャデータを用いたCG等を素材とし、舞踊の特性および動作の客観的把握を行える機能を備えた、舞踊学習や開発教育のためのソフトウェアの開発にも

寄与できると考えられる。アフリカの舞踊のデジタル教育教材を利用することによって、アフリカと日本の児童に関心を持ってもらうことを通じて、新たな文化継承者を発掘することに繋げるとともに、日本における異文化理解のための教材を開発することにも寄与することができる。

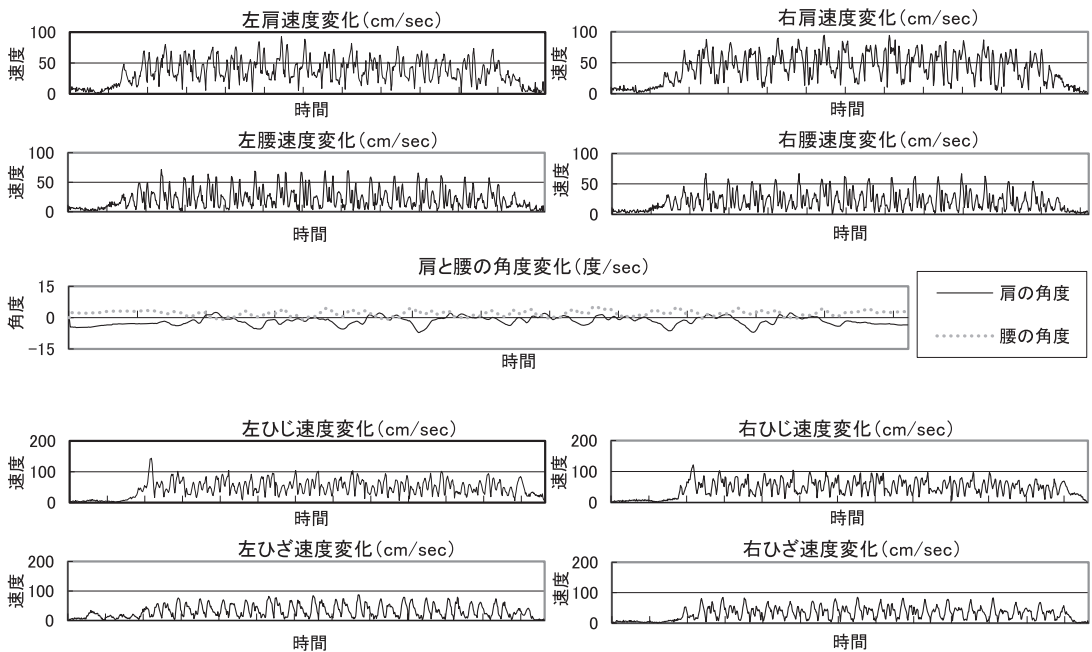
最後に、エチオピアのインフォーマント諸氏と舞踊団団員4名にご協力をいただき、さらには、2008年度～2012年度日本学術振興会基盤研究B「モーションキャプチャを利用したアフリカの舞踊に関する総合的研究」（研究代表者：遠藤保子）、2014年度、2015年度立命館産業社会学会共同研究助成「アフリカの舞踊と社会を対象にしたグローバル教育の教材開発に関する研究」から研究助成金をいただきました。心より御礼申し上げます。

注

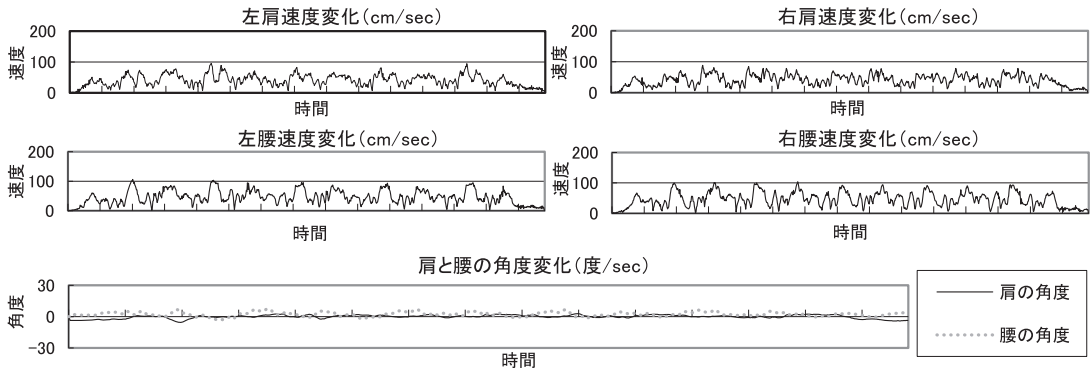
- 1) 本稿執筆者、野田章子。執筆時は旧姓。



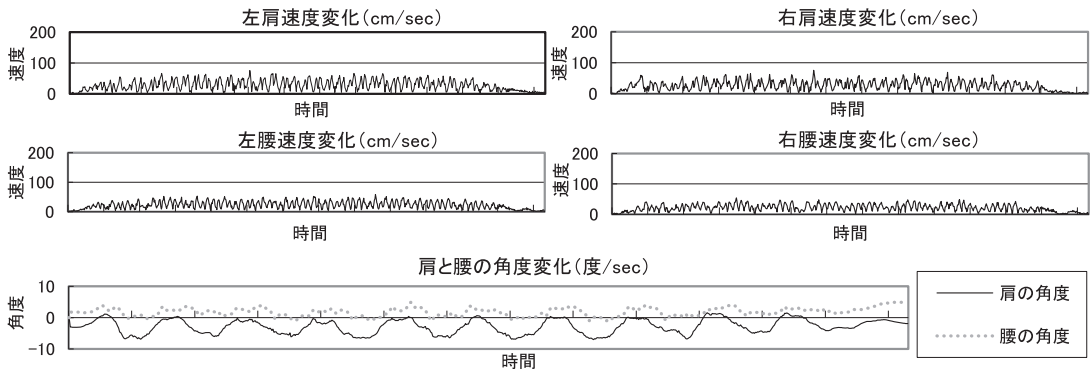
女性 C ウォロ Wollo-a



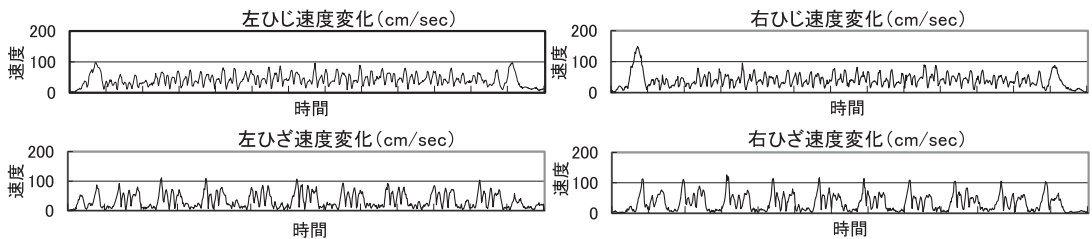
女性 C ウォロ Wollo-b

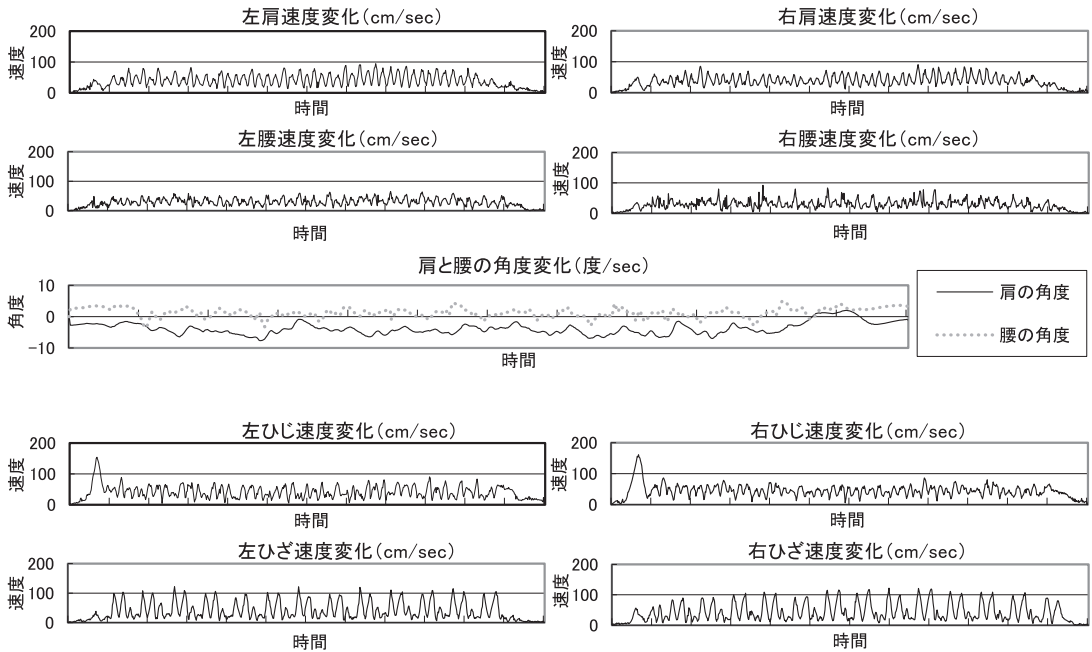


女性 C グラゲ Garage-a

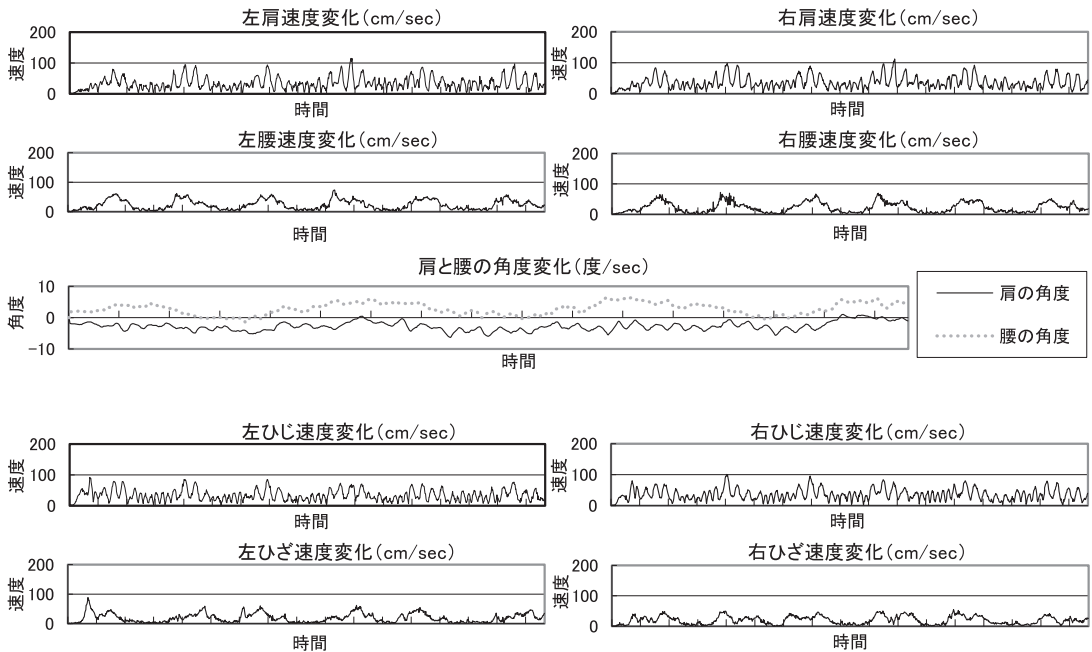


女性 C グラゲ Garage-b

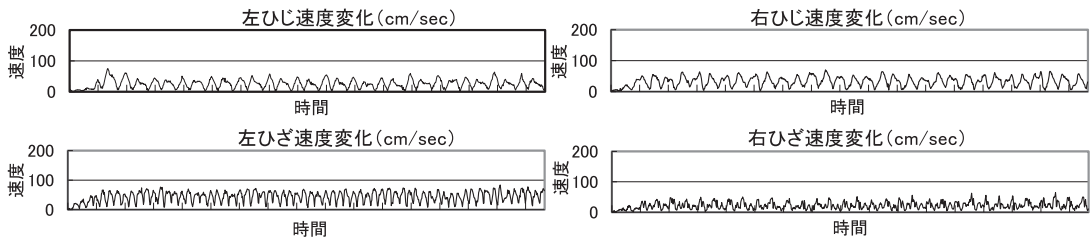
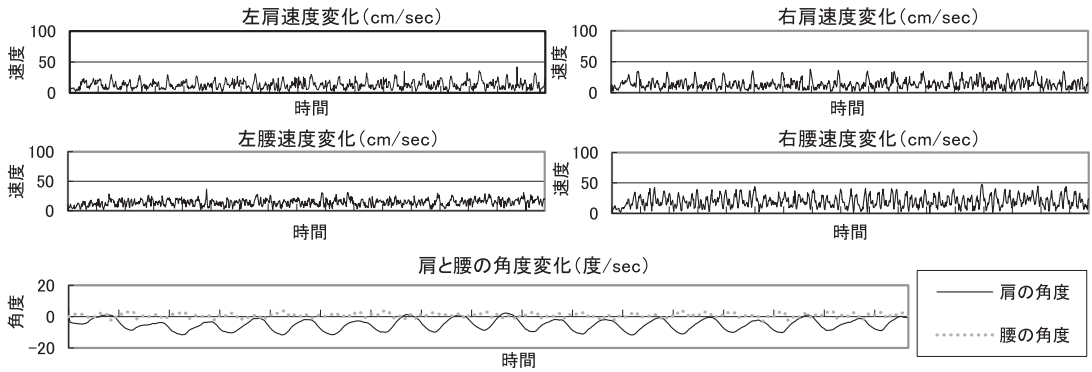




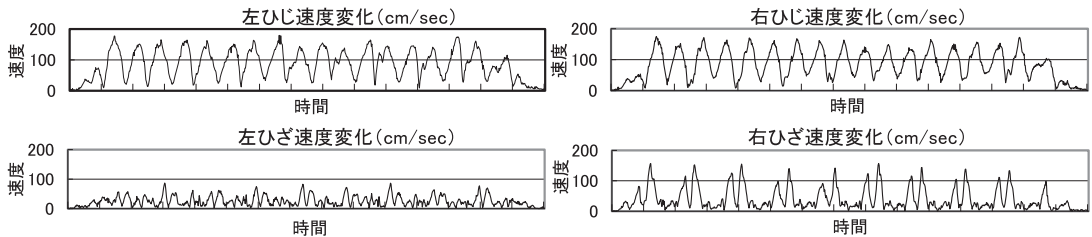
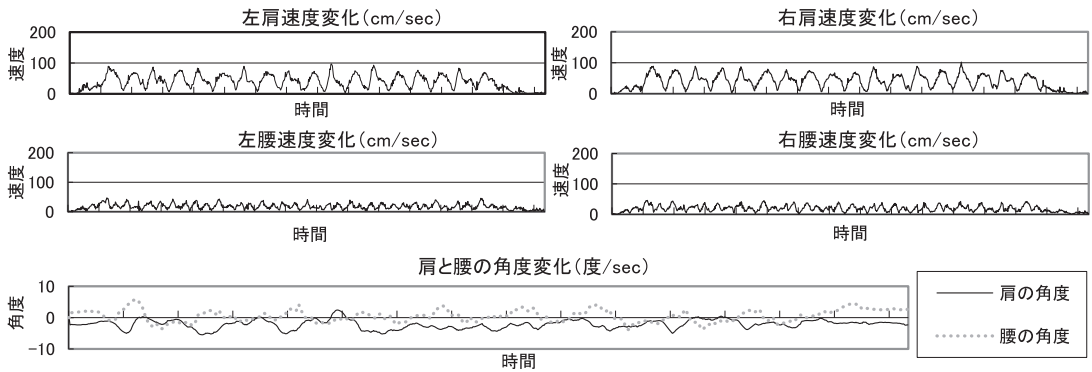
女性 C コンソ Konso-a



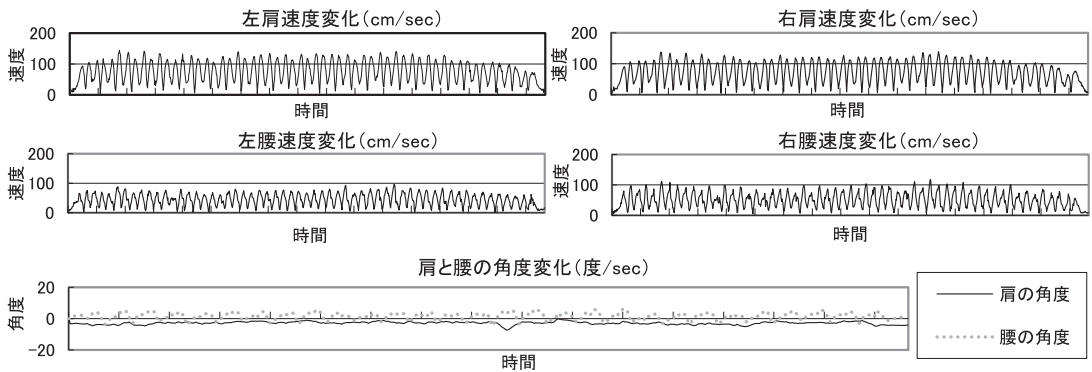
女性 C コンソ Konso-b



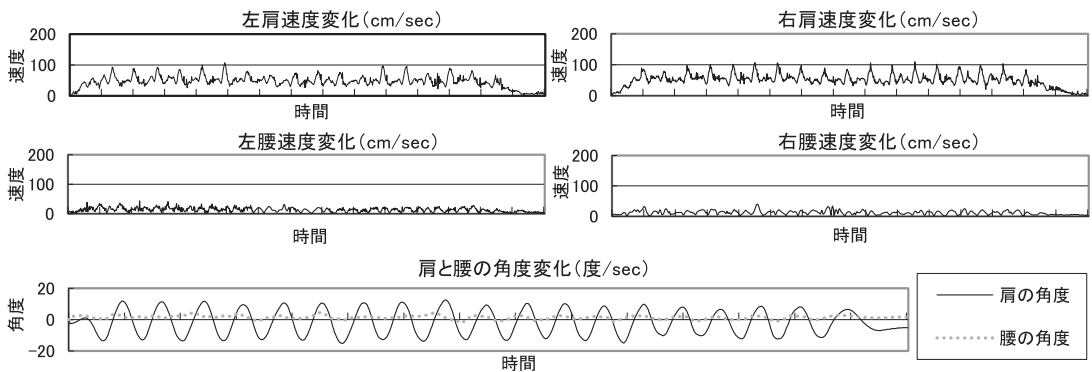
女性 C ソマリ Somali-a



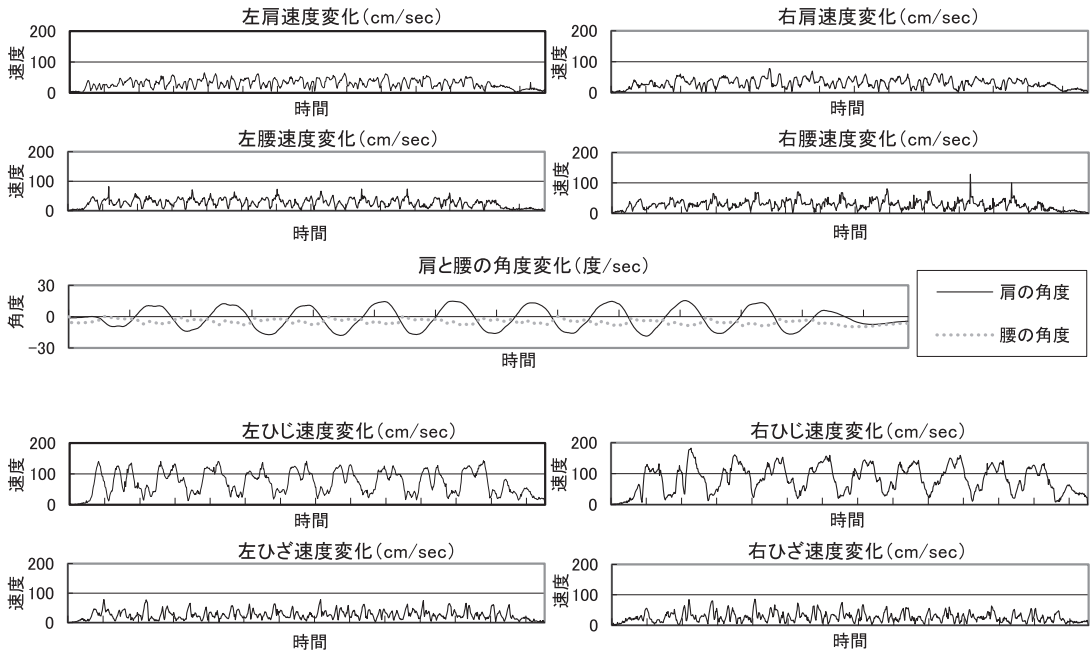
女性 C ソマリ Somali-b



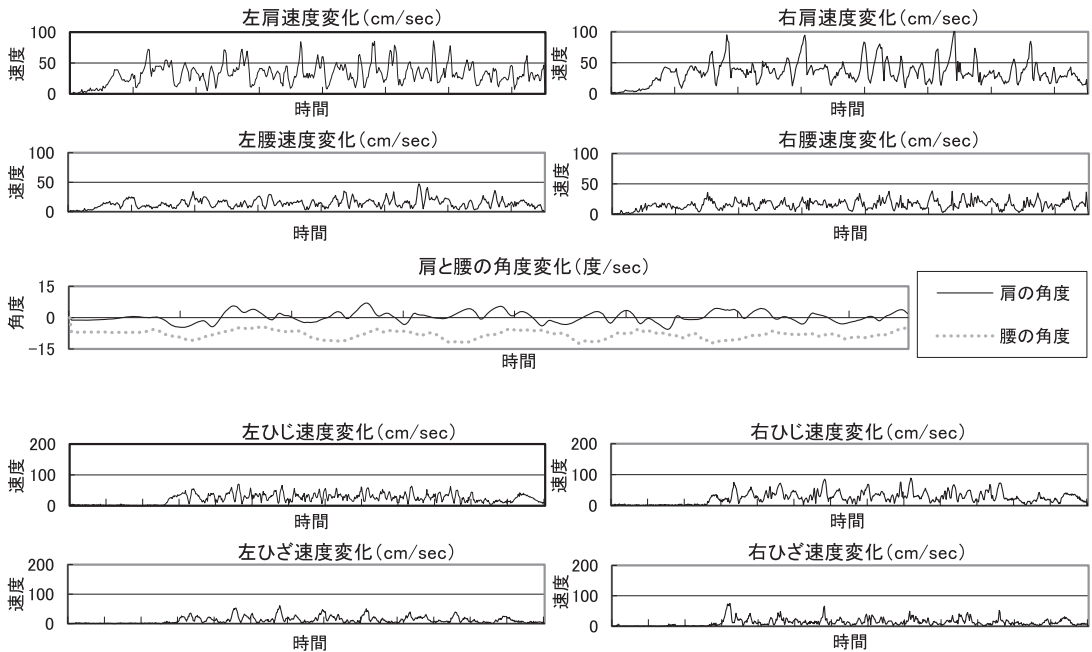
女性 C オロモ Oromo-a



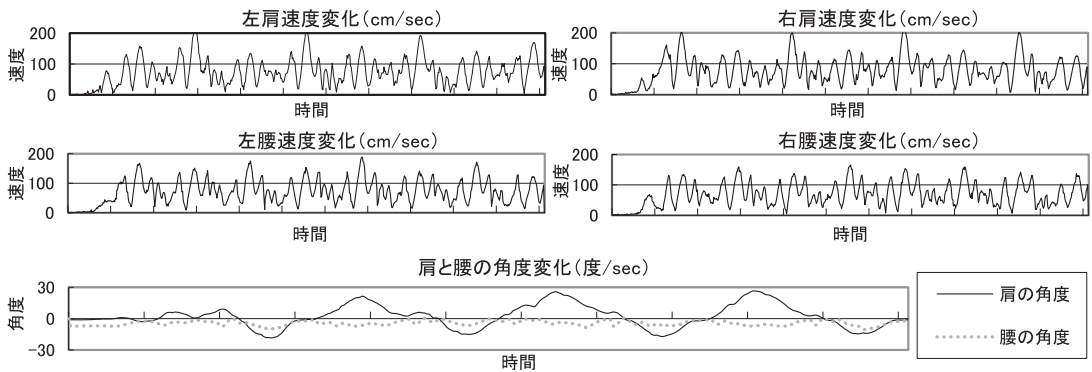
女性 C オロモ Oromo-b



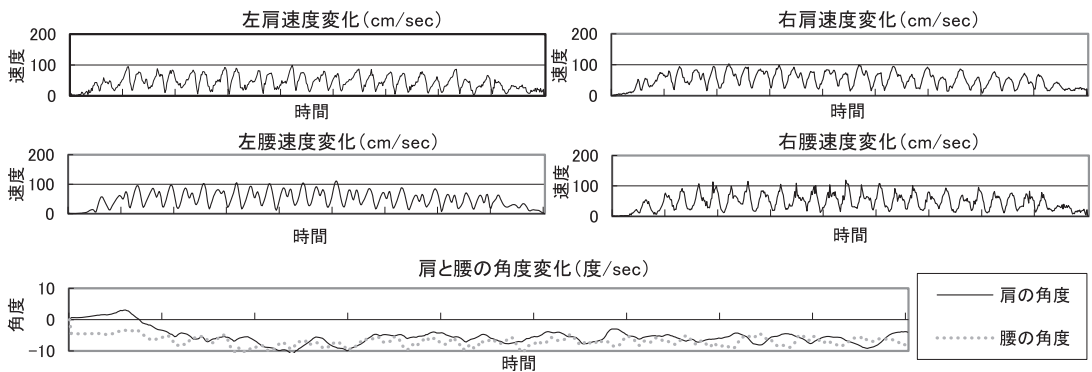
女性 D ウォロ Wollo-a



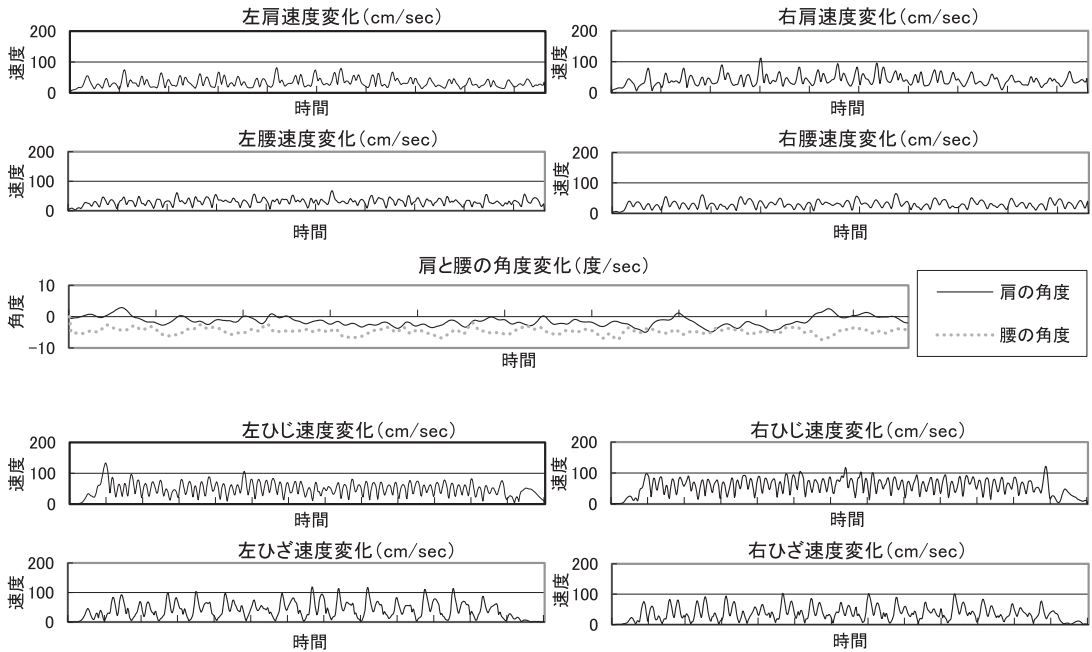
女性 D ウォロ Wollo-b



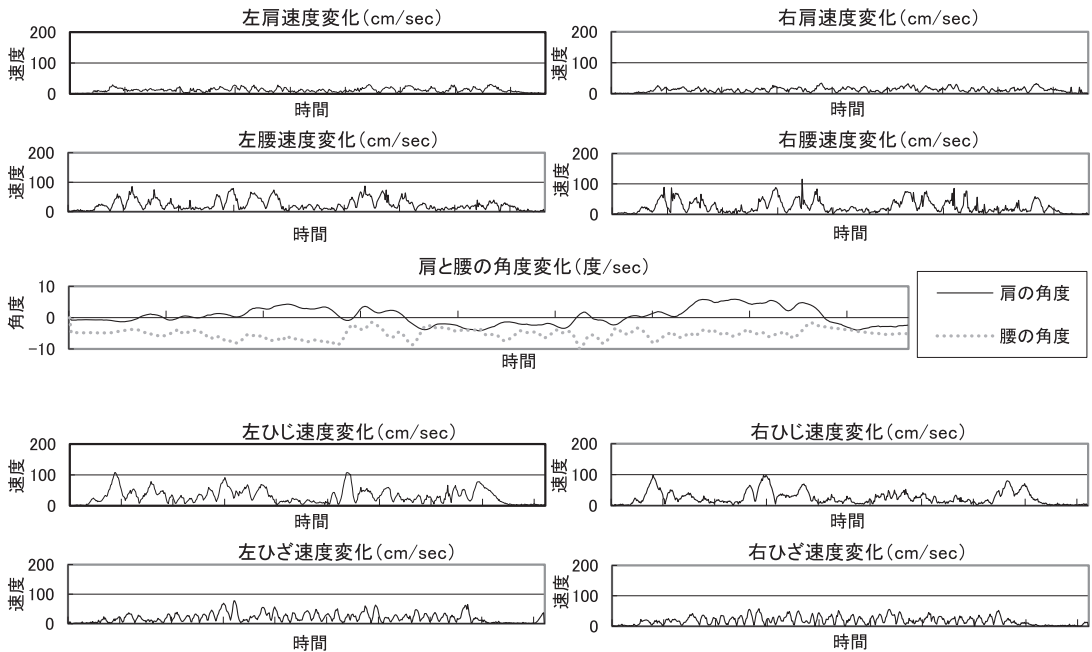
女性 D グラゲ Garage-a



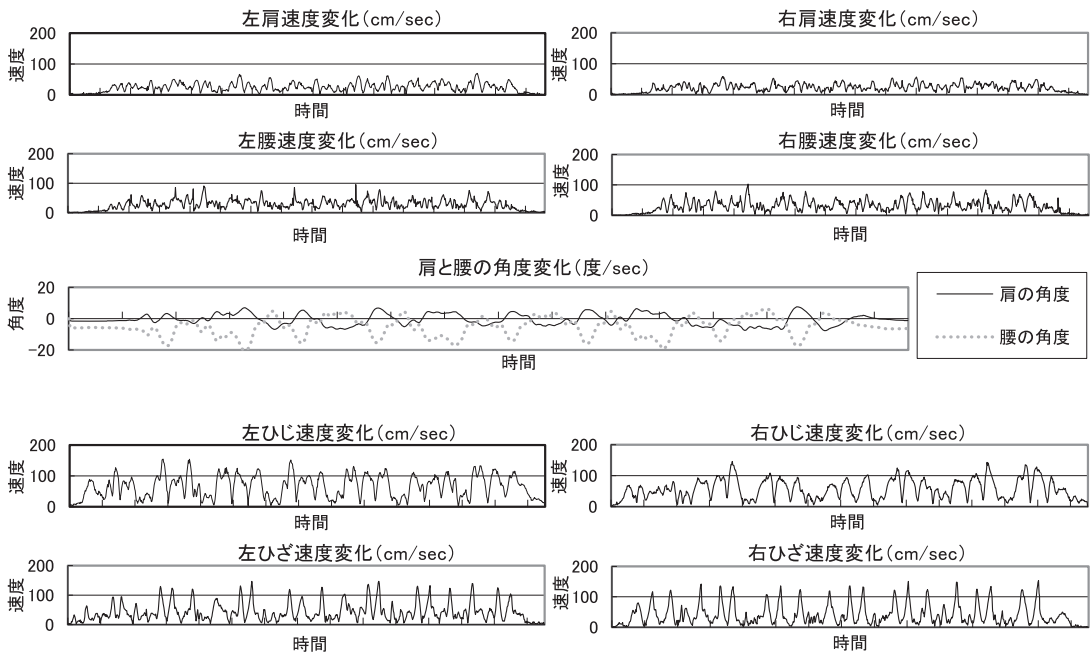
女性 D グラゲ Garage-b



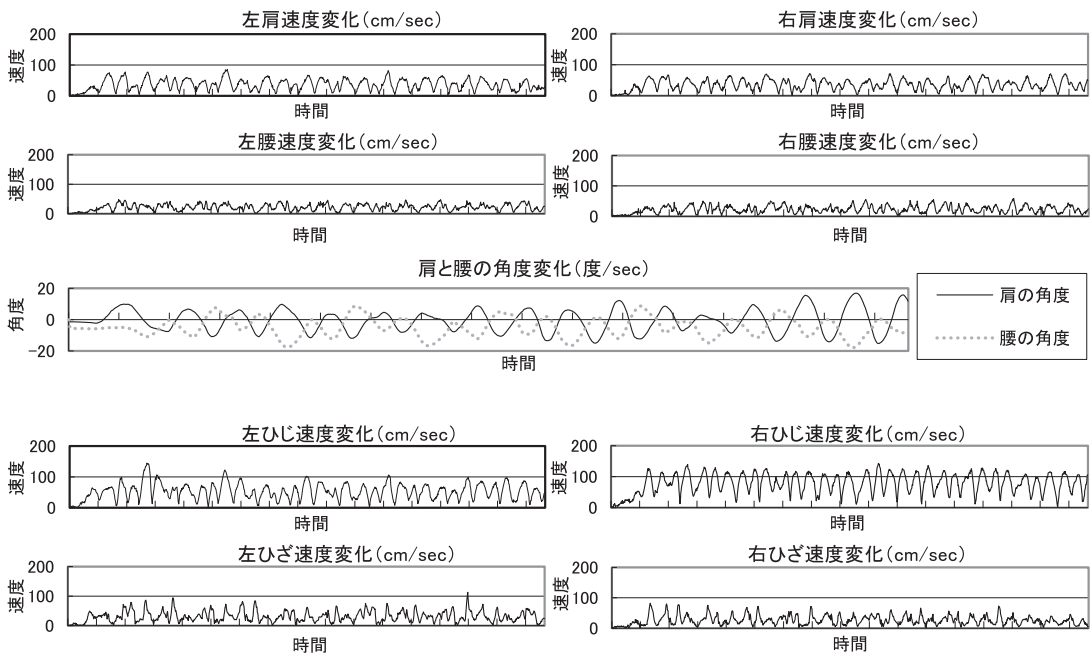
女性 D コンソ Konso-a



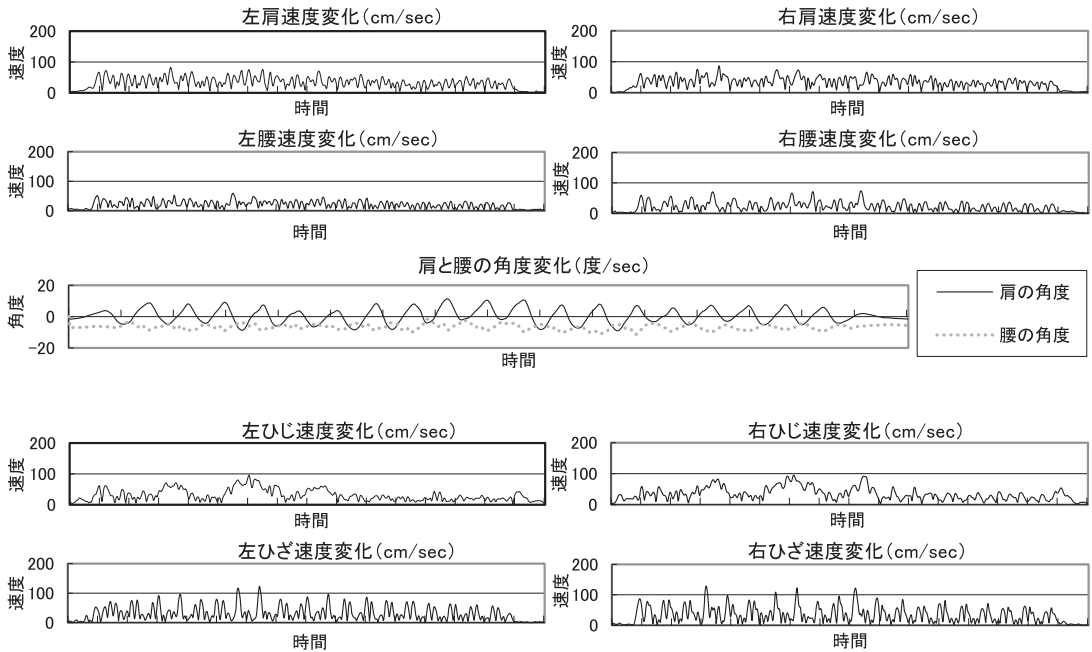
女性 D コンソ Konso-b



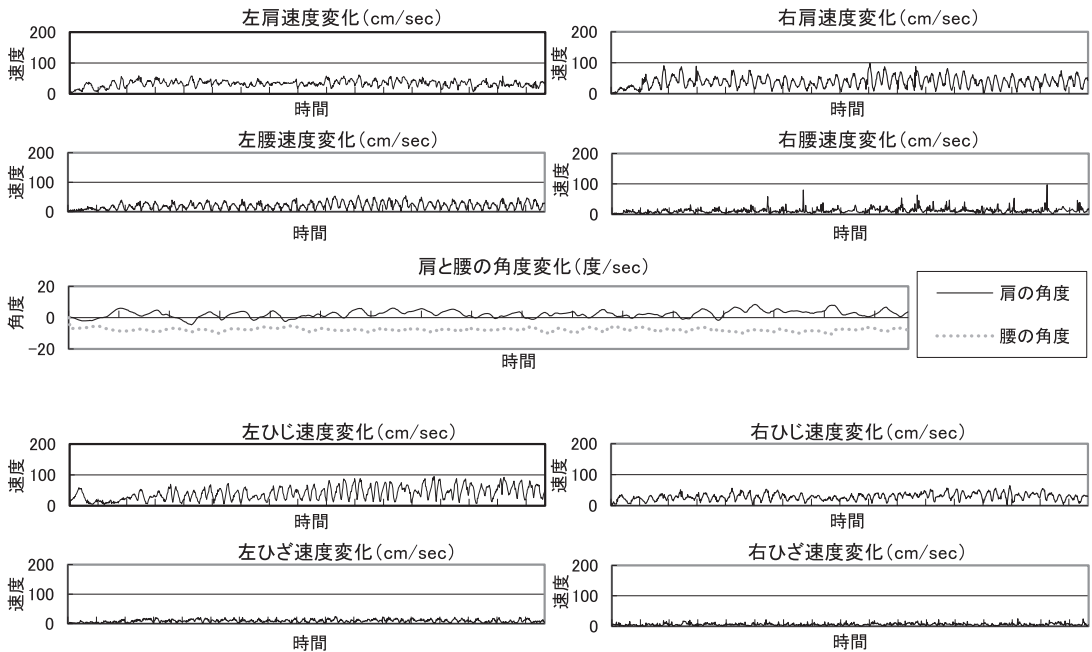
女性 D ソマリ Somali-a



女性 D ソマリ Somali-b



女性 D オロモ Oromo-a



女性 D オロモ Oromo-b

引用・参考文献

- Alan Lomax [1969 “Choreometrics: A Method for the study of Cross-cultural Pattern in Film” *Research Film*, vol.6 no.6 pp.505-517] Ronald D. Cohen edited 2003 *Alan Lomax Selected writings 1934-1997* Routledge, New York pp.275-284
- Cynthia Tse Kimberlin (1980) “*The Music of Ethiopia - Music of many Cultures*” University of California Press, Berkeley and Los Angeles pp.232-252
- Cynthia Tse Kimberlin (1986) “Dance in Ethiopia” *International Encyclopedia of Dance* Oxford Univ. press, New York pp.530-534
- György Martin (1967) “Dance Types in Ethiopia” *Journal of the International Folk Music Council*, 19 pp.23-27
- Sarosi. B. (1966) “The melodic patterns in the folk music of the Ethiopian peoples” *Proceeding of the third international conference of Ethiopian studies* Institute of Ethiopian Studies Heile Selassie I Univ., Addis Ababa, pp.280-286
- Tibor Vadasy (1970) “Ethiopian Folk-Dance” *Journal of Ethiopian Studies* Vol.8 No.2, Haile Sellassie I University, Addis Ababa pp.119-146
- Tibor Vadasy (1971) “Ethiopian Folk-Dance II: Tegré and Guragé” *Journal of Ethiopian Studies* Vol.9 No.2, Haile Sellassie I University, Addis Ababa pp.191-217
- Tibor Vadasy (1973) “Ethiopian Folk-Dance III: Wällo and Galla” *Journal of Ethiopian Studies* Vol.11 No.1, Haile Sellassie I University, Addis Ababa pp.213-231
- バーバリッチ・優子 (1998) 「エチオピアの民族舞踊」 社団法人アフリカ協会編『月刊アフリカ』1998年5月号 pp.18-23
- 遠藤保子 (1991) 「民族と舞踊」片岡康子編『舞踊学講義』大修館書店, 東京 pp.22-31
- 遠藤保子 (2001) 『舞踊と社会—アフリカの舞踊を事例として』文理閣, 京都
- 遠藤保子 (2004) 「舞踊と文化」寒川恒夫編『教養としてのスポーツ人類学』大修館書店, 東京 pp.75-81
- 遠藤保子 (2005) 「アフリカの舞踊研究」日本体育学会編『体育学研究』第50号 pp.163-174
- 遠藤保子他編 (2011) 『舞踊学の現在—芸術・民族・教育からのアプローチ』文理閣, 京都
- 遠藤保子・相原進・高橋京子編著 (2014) 『無形文化財の伝承・記録・教育—アフリカの舞踊を事例として』文理閣, 京都
- 池田章子 (2000) 『エチオピアの民族舞踊—ダンスと人びとの生活—』立命館大学修士論文 (社会学)
- 川田順造 (1999) 『アフリカ入門』新書館, 東京
- 川瀬慈 (2007) “Filming Itinerant Musicians in Ethiopia: Azmari and Laliballocc: Camera as Evidence of Communication” *Nilo-Ethiopian studies* vol.11 pp.39-49
- 小森淳子・米田信子 (2014) 「総説—言語・言語学」日本アフリカ学会『アフリカ学事典』昭和堂, 京都 pp.96-107
- 阪本寧男 (1988) 『雑穀のきた道』日本放送出版協会, 東京
- 重田眞義・金子守恵 (2007) 「食文化」岡倉登志編著『エチオピアを知るための50章』明石書店, 東京 pp.36-42
- 鈴木孝夫 (1969) 『高地民族の国エチオピア』古今書院, 東京
- 寒川恒夫 (1991) 「スポーツ人類学の連載にあたって」『学校体育』4月号, 東京: 78-80
- 塚田健一 (2000) 『アフリカの音の世界—音楽学者のおもしろフィールドワーク』新書館, 東京
- 松田凡 (1992) 「採取民コエグの歌とダンス—エチオピア西南部, オモ川下流平原の民族間関係—」国立民族博物館編『国立民族学博物館研究報告』第17巻1号, 大阪 pp.35-96
- “MINISTRY OF YOUTH, SPORTS & CULTURE OF ETHIOPIA” <http://www.mysc.gov.et/> (2016年12月11日閲覧)
- 外務省 <http://www.mofa.go.jp/> (2016年12月13日閲覧)

Motion Capture Recording, Analysis and Consideration of Ethiopian Dances (II)

AIHARA Susumuⁱ, ENDO Yasukoⁱⁱ, NODA Fumikoⁱⁱⁱ

Abstract : This study aims to clarify the characteristics of today's Ethiopian dances. In Ethiopia, traditional dances have been handed down from one generation to the next within local communities. Nowadays, there are fewer opportunities for local people to perform traditional dances and music due partly to young people increasingly gravitating toward Western cultures, but the country's dance traditions have been carried on by dance companies belonging to the Ethiopian National Theater and by private dance troupes.

To identify major characteristics of Ethiopian traditional dances, we used a motion capture system to digitally record five types of traditional local dances: Wollo dance in the north, Gurage dance in the mid-west, Konso dance in the south, Somali dance in the east, and Oromo dance in the mid-south. In particular, analysis was performed of speed variations of dancers' shoulder and hip movements, angle variations of their shoulder and hip lines, and the movements of their arms and knees. We also conducted interviews with local dancers about our analysis results.

As a result, basic performance characteristics of each dance were identified. It was also found that in a dance that seems to emphasize the movement of specific parts of the body, the whole body is used to represent a variety of expressions. The interviews conducted based on analysis results have enabled us to promote a better understanding of performance characteristics and desired movements of each dance.

Keywords : Ethiopia, dance, motion capture, performance characteristics

i Part-time lecturer in Ritsumeikan University

ii Professor, Faculty of Social Sciences, Ritsumeikan University

iii Doctoral Program, Graduate School of Sociology, Ritsumeikan University